

第82回審議会（R6.11.22開催）の主な意見及び回答

番号	委員からの意見	回答
議案 1号 ①	各説明会で、参加人数が1名から6名とばらつきがありますが、来られてない方への周知のあり方はどのようになっていますか。	地元説明会の後、市役所本庁舎で2週間の縦覧の期間を設け、そこで広く見ていただくようにしました。
議案 1号 ②	どの路線のについても、今回の廃止案については適当だと思います。しかしながら、八屋上井線近くの既設の市道について、道幅が狭くすれ違いに困ることがあるので、建設部で、道路拡幅や待避所設置といった安全策を検討していただきたい。	検討します。
議案 1号 ③	都市計画道路に指定されたら、すぐに壊せるものではないと建築できないのですか。	端的に言いますと、容易に除去や移動のできるものではないと建築できないという規制がかかります。
議案 1号 ④	この都市計画道路の計画は何十年前からもあるのに、代替の道路を作ったときに、この都市計画道路の計画が必要かどうかという審議はされてきていますか。	道路をつくるにはどうしても長い期間が必要で、その間には、人口の増減等の社会情勢の変化や交通事情等の変化があります。そのため、道路をつくった時点で、近くの他の路線をすぐに廃止とはなかなか難しく、計画はそのまま残していました。しかしながら、建築の制限もありますので、存続・廃止の検討を平成の終わりごろから重ね、平成30年の都市計画マスタープランで廃止の方向性を決めました。そういうことで、今回残りの6路線を廃止しようとするものです。
議案 1号 ⑤	災害が起きた場合、弱者が逃げ遅れたり、災害に巻き込まれたりということがなければ、この廃止案は全く問題ないと思いますが、これが、廃止になったために犠牲者が増えるとなると、福祉の観点からいうと嫌だと感じるのですが、このところはどうなっていますか。	鳥取県が都市計画道路の廃止についてのガイドラインを定めており、この中で、防災、つまり、避難所に続くような道については選定から除外しています。なので、今回の路線についても、避難施設につなぐものについては廃止しておりません。

議案 2号 ①	今回のこの圧縮梱包装置は、人によって、識別して、分別する装置になるのでしょうか。 月に2台程度、トラックで運ぶということですが、県外の業者に販売されるのでしょうか。 騒音や振動はないということでしたが、臭いの方はどうでしょうか。生ゴミでなくても、古紙やプラスチックゴミたくさんになりますと、やはりにおいが風向きによっては流れて、においを感じる、というふうな話も県外の方では聞いたりすることもあります。	梱包処理の作業は、受け入れしたものを、作業員さんが手で色物と白物に分て先ほどのリフトのような機械の部分に入れて、次は機械で上から下に落とし込むような形で圧縮作業がなされると聞いてます。識別、分別の段階の作業は手作業でされます。 製品の販売先は、今の計画では、兵庫県の高砂市の方にあるメーカーさんへ販売するという計画をお聞きしてます。 臭いのことですが、受け入れする廃プラスチック類は、汚れたものは受け入れはしないということです。今後、可燃物と廃プラスチック類の分別・収集を市町ともやっていくと思いますが、徹底した形で排出されるよう取り組みがなされると聞いてます。臭いが出る作業ありませんし、臭いのあるものを受け入れる予定はないと聞いてます。
議案 2号 ②	お菓子とかに使われてる軽目のプラスチックゴミはここでは使わないということになりますか。	事業者からお聞きしているのは、受け入れするのはまず軟質プラスチック類ということで聞いてますので、ペットボトルや、おかし類の包装類も該当すると思いますが、汚れものがないものを受け入れると聞いてますので、単純にそのゴミ袋の中からプラスチック類を選び分けて、こちらに受け入れるという考えではない、ということとは聞いてます
議案 2号 ③	ここで扱うプラごみは、普通の民間の方がゴミ置き場に置いたものをここに持ってくるのか、それとも業者に委託されたものがここに来るのか、一般の人がここをどういうふうに利用することになりますか。	事業者の方の事業活動から出たプラスチックにつきましては、産業廃棄物になりますので、事業者の方が自ら搬入するか、若しくは、産業廃棄物の収集運搬業者に委託して行うものだと思います。 家庭から排出される廃棄物は一般廃棄物といいます。プラスチック資源と一言に言ってもいろいろなものがございまして、どのようなプラスチックを、どのような分別基準で、どのように出

		すのかは、先ほど広域連合のスケジュールで示され、来年の9月末までに決定していくということです。家庭ごみにつきましては、1市4町が中間処理施設をどこに委託していくのか、広域連合さんがプロポーザルで決定していくとお聞きしてますので、Kセンターになるかどうかも含めて、これからの取り組みとなっているのが現状です。
--	--	--